

2000年12月20日

平成13年度予算大蔵原案について

社団法人 経済同友会
代表幹事 小林陽太郎

1. 大蔵原案は、景気最優先の財政からの脱却に向けての第一歩を踏み出そうとするものであり、わが国の経済状況、および深刻な債務状況を踏まえれば適切であると考えます。また、予算の配分については、日本新生特別枠や生活関連重点化枠によって見直しに努力した跡がうかがわれる。
2. 今後は本格的な財政再建に向けて、より抜本的な予算配分の見直し、歳出の質的な改善が重要な課題となる。まずは、早急に議論を始めることが必要であり、そのために年明けに発足する経済財政諮問会議を有効に活用していくべきである。

以 上